

# 海・空・港の研究所 秋の一般公開

入場無料  
雨天実施

ツアー方式  
事前申込制

開催日: 2013年11月28日(木)  
13:30~16:00(受付13:15~)

土木学会CPDプログラム認定  
認定番号

Aコース: JSCE13-0739(2.3単位)  
Bコース: JSCE13-0740(2.3単位)

私達の研究所は生活に深いかわりのある、港湾・海岸・空港の整備や沿岸域の防災、海の環境保全に関する研究を実施しています。今回、研究者による講座と施設見学を行う「研究所ツアー」を開催します。ツアーは2コースを設定しますので、参加ご希望の方は、ご希望のコースをお選びいただき、下記の申込み方法にしたがってお申し込み願います。

## コースのご案内

### ◆Aコース 13:30~14:30 (講座)

講座1: 身近なところから感じる物流と災害対策

国土技術政策総合研究所: 宮島 正悟

講座2: 干潟・砂浜の生態地盤学

港湾空港技術研究所: 佐々 真志

### ◆Bコース 13:30~14:30 (講座)

講座3: 日本におけるLCCの現状

国土技術政策総合研究所: 波多野 匠

講座4: 津波に対する防波堤の  
被災メカニズムと粘り強い構造

港湾空港技術研究所: 下迫 健一郎

### ◆施設見学 14:40~16:00 (Aコース・Bコース共通)

大規模波動地盤総合水路 ・ 油回収実海域再現水槽 ・ 三次元水中振動台 ・ 長期暴露試験場

※見学施設は変更になる場合がございます

## 申込み方法

★FAX、e-mailのいずれかで、以下の宛先まで必要事項を記入の上申込み下さい。

受付した方には受付票を発行します。

手続きの関係で申込みから1週間程度かかる場合があります。

〒239-0826 神奈川県横須賀市長瀬3-1-1

独立行政法人 港湾空港技術研究所 一般公開事務局

TEL:046-844-5040 FAX:046-844-5072 e-mail:kikaku@ipc.pari.go.jp

★必要事項: 以下の4項目

1) ご希望のコース

各コースとも定員25名です。(先着順で受付いたします)

2) 参加人数

3) 当日の交通手段

駐車できる台数が限られますので、車でのご来場をお断りする場合があります。  
公共交通機関のご利用にご協力願います。

4) 代表者のお名前、住所、連絡先(電話・Fax又は E-mail)

★締切: 平成25年11月26日(火)

※定員になり次第締切とさせていただきます。

※個人情報については、参加申込み以外の用途に使用致しません。



主催



国土交通省 国土技術政策総合研究所 <http://www.ysk.nilim.go.jp>



独立行政法人 港湾空港技術研究所 <http://www.pari.go.jp>

## 講演者紹介

### 講座1:身近なところから感じる 物流と災害対策

**要旨:** コンビニやスーパーなどに並ぶ商品は、原材料も含めると、そのほとんどが海外から運ばれてくる。どうやって運ばれるか、災害にどう備えているか、わかりやすく紹介する。

**講演者:** 宮島 正悟

国土技術政策総合研究所  
沿岸海洋・防災研究部  
沿岸海洋新技術研究室

### 講座3:日本におけるLCCの現状

**要旨:** 昨年、日本国内線に本格的なLCCが相次いで就航を開始した。日本におけるLCCは路線開設、撤退の動きが素早い状況にあるが、現時点での状況を紹介します。

**講演者:** 波多野 匠

国土技術政策総合研究所  
空港研究部  
国際海事政策分析官

### 講座2:干潟・砂浜の生態地盤学

**要旨:** 干潟および砂浜海岸における多種多様な生物生態と地形動態に果たす地盤環境の役割ならびに沿岸域の減災と調和した環境・生態系の保全・再生に資する新たな工学基盤・指針について紹介します。

**講演者:** 佐々 真志

港湾空港技術研究所  
地盤研究領域  
動土質研究チームリーダー

### 講座4:津波に対する防波堤の 被災メカニズムと粘り強い構造

**要旨:** 東日本大震災の津波によって被害を受けた防波堤の被災メカニズムについて、現地調査や模型実験による検証結果を紹介するとともに、設計を上回る津波に対しても甚大な被害を受けにくい、粘り強い構造の検討状況について紹介する。

**講演者:** 下迫 健一郎

港湾空港技術研究所  
海洋研究領域長

## ツアーでまわる施設のご案内

- 三次元水中振動台  
この施設は、13m角、水深2mの水槽の底に設置された直径6mの振動テーブルを水平2方向・鉛直1方向の3次元で振動させることができます。  
これにより振動テーブルに設置した模型に地震力を作用させて、水中での地震の影響を研究しています。
- 大規模波動地盤総合水路  
長さ184m、幅3.5m、深さ12mの水路で、起こせる波の大きさは、世界最大級の高さ3.5m風波、2.5mの津波を再現することができます。  
この水路では高波や津波の破壊力などを研究しています。
- 油回収実海域再現水槽  
水槽は、海水に実際の重油を浮遊させ、波、潮流、風、水温等を実海域に近い条件で油回収機の実験を行える国内唯一の施設です。
- 長期暴露試験場  
コンクリートなどの建設材料の耐久性を調べるため、屋外に試験片を置き、定期的に海水をかけるなどして、試験片の変化を長期間観察しています。